

遠州横須賀

国選択無形民俗文化財

三熊野神社大祭

令和七年四月四日(金)・五日(土)・六日(日)

奉納当番 軍全町(系組)

みどころマップ

発行者

掛川観光協会大須賀支部

静岡県掛川市長谷1-1-1 TEL (0537)21-1121

<https://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/kanko/docs/7469.html>



お気軽に
ご相談下さい
見積り無料

祭礼関連 職人集団!!

祭礼文化調査研究
技術・製作工房

伍 匠

連絡先 〒437-1301
静岡県遠州横須賀新屋町83

竹内 誠人

TEL 0537-48-2110

FAX 0537-48-2894

携帯 090-7670-9203



令和6年10月新調 三井区(大東地区)
外題:「三井山砦(徳川家康と酒井重忠)」

上棟・お祭り・イベント用 投げ餅

松葉米穀店

遠州横須賀369(東新町) TEL 0537-48-2068

仕出し弁当 鮮魚

有限会社 **けいもや**

遠州横須賀231(東田町)
TEL.0537-48-2631(代) FAX.0537-48-5000

シューズ

ミヨシカ

遠州横須賀135(西本町)
TEL・FAX.0537-48-2210



子授けの神事 三熊野神社

〒437-1304 静岡県掛川市西大淵5631-1

電話:0537-48-2739

ホームページ: <http://www4.tokai.or.jp/mikuma/>

時計・宝飾・メガネ

ミエズ時計店

遠州横須賀東本町 ☎0537-48-3197



*2階ギャラリー
常時開設

西大谷池

くぬぎ

軽食・喫茶「**樫**」

営業時間/AM10:00~PM4:00

定休日/月・火曜日

〒437-1304 掛川市西大淵6560-29

☎0537(48)5562

横須賀足袋
製造・販売

わたや

店主 竹内 誠人

〒437-1301 静岡県遠州横須賀新屋町83(掛川市)

TEL 0537-48-2110/FAX 48-2894

携帯 090-7670-9203



遠州横須賀河原町



商い時間 AM11:00~PM5:00頃

定休日 毎週日曜日と月曜日です。

売切れ御免

☎0537
(48)3613

スターオートサービス

静岡県袋井市山崎4682-1

TEL.0538-31-7213 FAX.0538-31-8220

各種印刷

有限会社 桑原印刷所

〒437-1301 静岡県掛川市横須賀1445

TEL.0537-48-2148 FAX.0537-48-5660

—町衆の思いを継ぐ—

頂きに煌めく

魂を込めた山車人形師たちの競演を

遠州横須賀では禰里(ねり)の最上部を彩る蓬莱(二見ヶ浦・日の出に鶴)や古来よりの逸話を外題とした人形飾りを「出し」と呼び、江戸町火消しに因む半纏柄、組名の大紋と共に町衆の誇りとなっている。時の城主よりの拝領と伝わる東・西新町や東・中本町などは往時より外題は変えていないと伝わるが、その他の町では明治から昭和初期にかけ外題を度々変えているところもある。いずれも名だたる高名な山車人形師たちが字町の思いに応えて腕を振るった秀逸な作品だ。



西新町(旭組)【二見ヶ浦】



西田町(に組)【鞍馬山】



大工町(せ組)【稲村ヶ浦】



東新町(め組)【日の出に鶴】



東田町(た組)【五條大橋】



河原町(か組)【川中島合戦】



軍全町(ゑ組)【大森彦七】



西大岡(み組)【南総里見八大伝】



西本町(い組)【太田道灌】



中本町(は組)【高砂】



拾六軒町(ち組)【須佐之男命】



新屋町(あ組)【神功皇后】



東本町(ろ組)【かめ割り小僧】

揃

4月4日(金)

12時～21時 櫛里曳廻し

宵宮

4月5日(土)

8時～ 櫛里供奉順籤引き
10時30分～ 三社祭礼囃子演技奉納祭[三熊野神社境内]
11時～17時 各町内役廻り
18時～21時 夜祭り

本楽

4月6日(日)

9時30分～10時 子授けの神事受付[三熊野神社拝殿]
9時30分～ 櫛里曳廻し(河原町にて梓上げ11時より神輿供奉)
10時～ 例大祭・神幸祭
11時～14時 神輿渡御・還御・還幸祭
15時～16時30分 子授けの神事祈禱
地固め舞・田遊び奉納[三熊野神社境内]
17時30分～ 夜祭り
21時 千秋楽[三熊野神社境内]

軍全町について

軍全町は、三熊野神社から直線で西に300mほどに位置し、真言宗大谷派の三つのお寺を有す全37戸の小さな町です。軍全町がその名を拝した背景には、町の西に位置する軍神社への信仰があります。軍神社は永禄三年(1560年)、桶狭間の合戦で今川義元が戦死した後、家臣の今川弥平衛尉が、義元が崇敬していた武甕槌神(たけみかずちのかみ)を「九宝山軍全坊権現」と称し祀ったのが軍神社の始まりと伝えられています。明治三年に社名を軍神社と改称。明治12年の本社再建と共に当時横須賀に在住した旧幕臣旗本達により東照宮より勧請、神君徳川家康を奉斎合祀しています(参照:軍神社・東照宮の由来より)。

「糸組」の由来は、恵まれた町「恵」から「糸」としたといわれています。代々、軍全町では山車をととても大切に受け継ぎ、平成20年に大山車・小山車・大山車出し人形、平成31年に大山車・小山車の輪と天幕修復を経て現在に至ります。

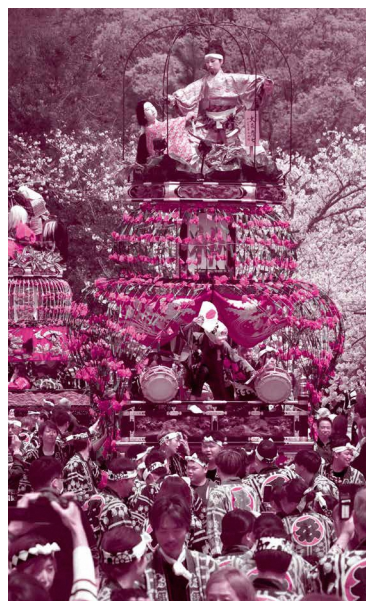


出しは史劇「大森彦七 楠木正成息女千早姫」

南北朝時代。湊川の戦いで南朝側の名将 楠木正成を討ち取った大森彦七は、その後、自分の領地である四国の伊予(現在の愛媛県)に戻っていました。ある日、彦七は自らが能を舞うため、仲間の侍らと共に寺の能舞台へ向ったのですが、その道中、舞台鑑賞を望む娘と出会い同行を許します。しかしこの娘の正体は楠木家の宝剣「菊水」を取り戻し、父の仇を討つため近づいてきた正成の娘、千早姫だったのです。増水した川にさしかかり、彦七は娘を背負って渡るのですが、途中で背後から鬼女の面を被り恐ろしい鬼へと姿を変えた千早姫が襲いかかって来ました。争いの中で正体を見破った彦七は、千早姫から誤解を受けている事を知り、真実を語ります。楠木の本陣に攻め入ると、既に正成は切腹直前であったが、武士の礼を尽くして最期を見届け感謝された事、そこに残された刀を宝剣と知らず携(たずさ)えていた事を明かしたのです。全てを理解し、涙を流して彦七のもとを去る千早姫。その腕には宝剣『菊水』がしっかりと抱かれていた。

(参考文献:「新 歌舞伎十八番 大森彦七」 解説 手塚茂樹氏より引用)。

丸提灯・町印はともに車の輻(や)の先、輪の外側のところに八つの槌をつけた「槌車」。十三町で唯一「ズリ棒」をつけていないのが軍全町の特徴です。白足袋にすり足、早調子の太間など、いにしえのころから受け継がれる軍全町ならではの伝統囃子をご堪能ください。



おめい町の山車自慢!

軍全町(糸組)